○抱いていたイメージはどう変わったのか
○この単元では何を学んだのか
○学習の進めかたはどうであったのか

などについて、自己評価をさせる。

② 一単位時間における自己評価

一単位時間の指導過程において、ここでは特に、児童の活動7番を重視している。（資料5）

ここを自己学習能力を育てる重要な場として位置づけ、「算数日記」という形で実践してきた。すなわち、その内容は、

1、わかったこと（わからなかったこと）
2、どのような工夫によりわかったのか
3、感想

の三つの観点についてである。1番の「わかったこと」は、本時の課題との関連で書かせている。本時の目標が達成できたのかどうかが評価できる欄である。2番の「工夫」については、毎時間、「こんな工夫をしたからわかったのだ」という見方のできる児童を育てたいという願いがある。3番の「感想」は、いわゆる感想であるから、興味の程度、満足の度合など、どんなことでもよい。この欄によれば、情意面の評価がよくできる。（資料6）

③ 自己評価と自己学習能力

○学習目標を見つけていく力
○学習方法を見つけていく力
○学習を自分の意志で進めていく力
○学習の過程や結果を評価していく力

これらの四つを自己学習能力の要素であるとしたが、これらは全て自己評価の観点ともなるものである。すなわち、

1、目標（課題）に対してどうであったか
2、学び方（工夫）の面でどうであったか
3、情意面（感想）でどうであったか

ということになる。まとめると、自己評価活動の体験を、児童のあしあととして蓄積させ、それを自己学習能力として高めることが重要であると思う。

資料5　自己学習能力を育てる学習過程

段階	教師のねらい	児童の活動	児童の見方、考え方
まとめる	一般化への方向づけ	⑦、何を学んだのかをまとめる ○何がわかったのか ○どのようなくふうによわかったのか 8、みんなの話し合いで確かめる	○文にまとまておこう ○こんな工夫をしたからわかったのだ ○この考えでよいのか、みんなに話してたしかめてみよう
適用する	定着、発展	9、学習結果を、新しい問題にあてはめてやってみる 10、次時の学習をはっきりする	○こんなときはどうすればよいのかな ○このあと、どうなって ○このあと、どうなっていくだろうか

資料6　児童の算数日記の記載例

	月・日	①わかったこと（わからなかったこと）	②どのようなくふうによりわかったのか	③感想
1	8/29	平行四辺形は底辺×高さでもとめられること。	平行四辺形の形の紙をもってみる（ひし形にかえて）	平行四辺形の形の紙をもるのがおもしろかった。
2	8/31	たてに長い平行四辺形でもふつうの平行四辺形のやりかたでできる。	平行四辺形の形の紙を線をかいて書く（結局はこのことがいちばんたいせつだったのです）	さいごにふつうの平行四辺形で同じやり方だったのでなんとなくしりけた。
3	9/2	三角形の面積は底辺×高さ÷2でもとめる。	形をかえずに面積をもとめられた。（こういうやり方もあるのですね。）	きょうはよ習したのでよくわかった。
4	9/4	高さがはみ出る三角形でもふつうの三角形と同じやり方でできる。	形をかえないでもとめられた。（結局は平行四辺形にしたのですね。）	平行四辺形にしないのに÷2でわるのがふしぎだ。
5	9/6	台形は（下底＋上底）×高さ÷2でもとめられること。	相田君のように三角形にもしてみた。	いままでは高さをつかわなかったことがないのでふしぎだ。（前のかけたことがない）
6	9/10	多角形は（いくつかの合同な三角形に分けてもとめられること。	台形と三角形でやるやり方。	多角形は公式がないのかがふしぎだ。（公式にできないですね。）
7	9/11	ひし形は長方形にして対角線×対角線÷2で求められること。	三角形でもとめられた。（でも大切なのは対角線を使う考えです。）	はじめて長方形にしてやるやり方ができた。
8	9/14	道をてって花だんの所だけくっつけて道のはばをきたこと。（長さがちがう）	花だんをくっつけたこと。（よくとどいた）	くろしてやるのはもってやるやり方がわるいのかわからない。
9	9/18	ますの内の面積はふつうにかぞえてますにならないこと。は、÷2にすれば求められる。	ますを使ったこと（よく考えている。）	きょうはとてもむずかしかった。
10				
11				
12				

算数日記

番号（[redacted]）名前（[redacted]）

〈この単元を学習して〉

この単元はとてもかんたんだった。だけで公式がむずかしかった。しかも、ドリルがかんたんなのがよかった。一ばんむずかしかったのが曲線の形の面積の求め方だった。

大切なことは公式をわすれても自分で作り出せることなのですが……できますか？